

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念を作っています。	○	その理念に対して完璧に出来るよう日々心がけています。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	取り組んでいる、毎月のミーティング時にスタッフ全員で声に出して確認している。	○	運営理念をフロアーに提示し、スタッフ一人一人も常に持ち歩いている。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム玄関、フロアー内2ヶ所、事務所等の目に付きやすいスペースに貼っている。	○	家族に質問されることはありません。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームで開催している七夕祭りにておこなっている屋外焼肉パーティーに近隣のおじいちゃん、お隣の民生委員さんやそのお孫さんがきてくださる。朝の挨拶は必ずする、帰りには向こうから声をかけてくださる、三軒隣のおじいちゃんが本人で漬けた漬物を持ってきてくださる。	○	七夕祭りの焼肉パーティー・幼稚園との交流・ボランティアによる行事。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	アカシヤ公園での盆踊り、秋のお祭りなどは楽しく参加させてもらっています。朝里神社のどんど焼は必ず5か～6人で行っている。町内会へ入会している。	○	入居者の中に町内の婦人会、新和会に入会している方がいる、会の集まりがある時は車にて送迎している。子供みこしがホームによりワッショイ、ワッショイしてくれる。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ご家族の承認を得てふれあい便りを配布している。ふれあい便りには地域の方々に認知症を理解していただける様、キャラバンメイトの資格を持つ職員が一コマモとして認知症という病気を分かりやすい言葉にて連載している。	○	もっと地域の人方に認知症を理解していただけるよう、町内の会合に出向き時間をいただいて話を聞いていただく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価等で指摘を受けた項目はスタッフ一同一つづつクリアしている、現在指摘を受けている項目はない。	○	グループホームふれあい朝里の表札を暖かい雰囲気を感じられるような素材(木材)で作る。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	H18年度は2回、H19年度は2月と5月に実施しました。ホームの状況や出来事をご家族に報告、又ご家族から色々な要望があり、大体の要望には応えている。	○	家族よりスタッフの入れ替えは極力避けて欲しい、食事のメニューは本人が食べたいものを塩分が多いとしても提供して欲しいなどの訴えあり。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	小樽グループホーム連絡協議会に常に参加している。介護保険課、高橋主幹・宇田川さんに相談している。	○	疑問に思うことがあればどんどん相談していく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者、ケアマネジャーが小樽医師会が主催した成年後見制度の概要と問題点について弁護士関口正雄氏の講演会に参加した。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止研修会(H19,3,20)に参加。毎月のミーティングにて拘束のないことをスタッフ全員で確認を取っている。	○	ホームでは研修会で発表されている拘束などはまったく考えられず、入居者さんは自宅で生活しているときと変わらないような毎日を過ごせるような支援を今後とも続けていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際に読み上げながら説明している。一つ一つの項目を理解していただいている。	○	その場にて疑問点があれば質問していただき返答していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者さんから不満がある時は、話を聞いてほしいとスタッフに言ってこられます、何が嫌なのか話を聞いて本人が納得できるように努めています。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月の請求書の送付時に入居者担当者から1か月の本人のご様子を直筆にてお手紙にて知らせている。ホーム便りを送付している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会にて家族より要望が出ます、要望に関してはほぼ実行している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回運営者運営者や各フロア管理者、職員にて責任者会議を行っている。</p>	○	<p>運営者に要望を出し、検討している。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>努めているが、スタッフに欠員が出たとき等に多少の困難はある。</p>	○	<p>緊急時はホーム長、フロア長がすぐに駆けつける体制をとっている。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>配慮をしている。</p>	○	<p>職員は長く勤務している者が多く、セルフケアに努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	無資格で採用した職員には働きながら2級を取得していただく。3年を経過した者は介護福祉士に挑戦している、4名合格者あり。	○	管理者になる者は管理者研修の受講、他スタッフはグループホーム介護スタッフレベルアップ研修をほとんどのスタッフが受講している。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	向かいの介護付有料老人ホーム「ラ・ナシカあさり」近くの「あつとホーム朝里」の管理者や職員と交流あり。	○	これからは「ラ・ナシカ朝里」さんや「アットホーム朝里」さんの入居者さん同士でレクリエーション等をして行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の話をよく聞いている。	○	今後も職員の訴え、悩みには耳を傾けていきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々が年間の目標を立てている、1年を過ぎて自己評価を出して翌年は新たな目標を立てている。	○	今後も続けていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居される際には利用される方と顔をあわせている。ご本人がどのような希望があり、この先どのように生活していきたいかを聞く。	○	入居前にご本人に会いに行き、個人面談しホームの様子を伝えている。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前のホーム見学の際にはご家族の苦労話や、入居者が今後どのような生活を送ってほしいのかご家族の話をお聞いている。	○	大変なご苦労をされているご家族は話をされながら涙ぐまれることもあり、そのようなご家族にも安心していただけるような支援を今後もしていきたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に良く話を聞き、穏やかに生活を送られるには何が必要か一人一人の今まで送られてきた生活の状況を見極めアセスメントする。	○	その人らしい生活を送るためにしっかりとアセスメントを行い、その人にとって重要なニーズは何か見極め、把握している。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心して生活されるようにスタッフ全員が対応している。	○	毎月ミーティングを実施、カンファレンスをおこない実践している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段の会話などで昔話をしたり、レクレーションを通して喜び合ったり共に支えあう関係を築いている。	○	入居者一人一人にしっかりと挨拶し、会話するようところがけている、また会話の中や表情、声のトーンなどでその日の調子、機嫌を把握していけるよう努めている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の手紙、電話などで連絡をとり、話し合いながら支援していくよう努めている。ご家族来訪時には直接話し合ったり、レクなどに参加していただき共に楽しみを共感している。	○	ご家族の悩み、要望に耳を傾け、解決されるよう共に話し合っている、又ご家族にも行事に参加していただき仕事の様子や入居者さんの様子を見ていただき共に楽しめるよう努めている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	本人と家族の関係を理解し、よい関係が続きように支援している。	○	よい関係をいつまでも持っていていただくようお互いの話を良く聴き状況を把握するように努めている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者さんの友人等スタッフが代わって連絡したりホームにこられた時にゆっくり過ごしていただけるよう支援している。	○	ご友人などの来訪時にはゆっくりと話を出来るよう配慮し、今後も遊びに来たいと思っていただけるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者全員が参加できるようなレクをおこない、それを通し共通の話題等でもらわれるよう、又孤立しがちな利用者にはすたっふの声掛けにて話し合えるよう努めている。	○	みんなでレクをやる際には一人が出来ずに嫌な思いをしないように配慮し支援している。孤立しがちな方、話が苦手な方にはスタッフが声掛けしたり、会話のパイプ役になり関係を持てるように努めている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院等で退所にになった場合等、時折お見舞いなどに言っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人一人の好み、意思を把握し利用者の満足いける様努めている。困難な場合はミーティング等で検討し解決できるよう精一杯努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や好み等を家族や本人から聞き把握した上でサービス提供できるよう努めている、又個人ファイルやスタッフ同士の話し合い等でサービス利用の経過等を把握している。	○	入居者さん一人一人に合った生活環境を整えるため日々の目配りや状況の変化の伝達をしっかりと出来るように努めている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別日報等24時間把握できるようチェックされている。身体状況の変化も伝達、記録、カンファレンス等で把握できるよう努めている。	○	個別日報をこまめに記入、又個々の状況にあわせてチェック表などを作成し、スタッフ全員がしっかりと把握できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	会議は毎月実施され、ケアのあり方についての話し合いを行って、介護計画をケアマネが作成しより良い生活が送れる様な支援をしている。	○	ケアマネは日々の状況や直接本人と関わりその方に合ったケアプランの作成を行っている、又スタッフは作成されたケアプランに目を通し意見交換をし、二重、三重の目でよりよいケアプランが出来るように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランは3か月ごとにモニタリングをし6か月ごとに見直しを行っている。毎月1回利用者個々のカンファレンスを実施し、プランの出来ている部分、出来ていない部分を意見交換し都度プランに取り入れている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別日報に毎日記入し介護計画に沿ったケアを実践している、見直しの場合等はスタッフ話し合いのもとなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、ご家族の要望をしっかりと受け止め、カンファレンスの際に要望に応えられるように話し合いをし、実践できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティア等の協力により、外部との交流を図っている、又消防訓練等消防署の協力を得て毎年行っている。	○	万が一の時に迅速な対応が取れるよう今後も消防訓練を実施していきたい、又ボランティアなど外部の方との交流も積極的に取り、生活の楽しみ、質が上がるよう努めていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	サービス事業所のケアマネとの交流を図っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ご本人の希望あり、終末期をホームで過ごしたいと要望があり包括支援センターに相談。親身に相談にのっていただきました。	○	終末期に対しての相談などを行いアドバイスをいただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回の往診をおこなっている。急変時の対応、又はスタッフからの相談など気軽に話し合える体制になっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科の先生、看護師さんにこの方にとってどのようなケアを行ってほしいか相談し、退院後に実施している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保してはいないが日常の健康管理や相談事に対して常に連絡が取れる体制になっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関との連絡は十分なされている、入院された時等病院へ様子を伺いに出向き、家族への連絡、情報交換を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方等、早い段階で家族や病院に相談し方針を共有している。	○	スタッフ間の信頼感、安心感がもっと深まるようミーティング回数を増やす。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討	ターミナルケアに関してマニュアルを作り、毎月のミーティングでスタッフ全員がターミナルケアを受け入れて対応できるような体制作りをしている。	○	今後さらにスムーズな対応が取れるようミーティングを行い、マニュアルの見直し等をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人や家族と十分に話し合い、情報交換が充分できる体制をとっている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人一人の気持ちを尊重し、言葉遣い等にも十分に配慮している。</p>	○	<p>今以上充実していく。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何度も同じ話をされてもその都度快く対応し、利用者が少しでも理解できるよう分かりやすく説明している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の生活観、状況を把握し、スタッフ優先ではなくどうしたら楽しくその人らしい生活が出来るか検討しスタッフ一同努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎月理美容に来ていただき、本人の希望に沿った散髪をされている。定期的に爪きりなどを行い、外出時にはおしゃれをしていただき楽しい気持ちを持っていただけるよう努めている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>後片付け等できる方には順番にお手伝いしていただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康に留意し、食べたいもの等を知りたり時期の物を取り入れ出来るだけ希望に沿えるよう努力している。	○	嚥下、租借に問題のある方は、その方の合った食形態で対応し、少しでもおいしく摂取されるよう都度対応している。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ3ヶ所設置しており車椅子、歩行器に対応できるようになっている、又時間を見てのトイレ誘導、失禁時の清拭等清潔に努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	順番に入浴できるように支援している、又拒否される場合は無理せず本人の意向を尊重するよう努めている。	○	「私はいつも入っていない」等の訴えが多く聞かれる方には個々に入浴カレンダーを作成し、入浴したことを確認できるようにしている、又フロアにその日の入浴者の名前を提示し不安のないように努めている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ソファで居眠りされたり、居室にてベットに横になられたりと自由に過ごされています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事の参加等本人の習慣、生きがいが持てる事をやっていただいている。音楽療法、体操、散歩等を実施し生活に変化をつけ退屈せず楽しみを持って生活できるよう努めている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる利用者さんが居ない為スタッフ預かりとし、家族来訪時に管理状況を確認していただいて了承を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>61 ○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>外の天気の状態等を見てドライブに行ったり近くの花を見に行ったりと心がけている。</p>	○	<p>入居者さん一人一人の体調を把握し毎日20分～30分でも散歩に行く習慣をつけていきたい。</p>
<p>62 ○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>温泉一泊旅行や花見など家族の方とも一緒に過ごす機会を設け、利用者同士のふれあいや家族とのふれあい等を出来るように支援している。</p>		
<p>63 ○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族からのお便りや贈り物などが届いたときは必ず電話し本人が話出来るように支援している。</p>		
<p>64 ○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでも訪問できるようにスタッフ一同笑顔で対応されている。</p>	○	<p>お客様来訪時等にはゆっくりされるよう配慮し、お茶をお出するなど歓迎しています。明るく親しみのあるホームであり続けたい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援			
<p>65 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>禁止されている身体拘束を十分把握し一切身体拘束はされていない。</p>	○	<p>スタッフの目配りなど今まで以上に注意を払い安心して暮らせるよう努力していきたい。</p>
<p>66 ○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室、玄関は日中は施錠されていない、但し事故防止のためエレベーターを停止する場合がある、夜間は玄関を施錠している。</p>	○	<p>エレベーター等を一時的にでもストップしないでケアしていけるように、スタッフ一同勉強していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>24時間体制での見守りはスタッフ一同実施されている、夜間時の巡回、日中の目配りなど安全に配慮されている。</p>	○	<p>日中時、夜間時でもその人の状況に応じ巡回路数を増やす等より安全に注意を払う。</p>
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>転倒防止の為、利用者のADLの状態によりカーペットを外したり、つまずきやすい物を整理することはあるが本人ゆかりの品(仏壇やたんす等)は片付けず、すべり止めをひくなどの対応をとり安全に生活できるように努めている。</p>	○	<p>スタッフ一同生活環境にはとても気を使っている、今後も安らげる生活環境を整えるため努めていきたい。</p>
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>運営者が研修に参加し、スタッフに勉強会を開いている。</p>	○	<p>運営者や管理者ばかりではなくスタッフ全員が専門的な研修を受けていくこと</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>初期対応の訓練は行っているが定期的実施していく必要がある。緊急時対応マニュアルを作成し利用者個々のファイルに提示してある、又ステーションにも提示している。</p>	○	<p>定期的に応急処置などの初期対応に対する訓練を行ってきたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の協力を経て実際に非常ベルを鳴らし消防車も出動していただき、年1回全員参加のもと実施されている。</p>	○	<p>スタッフ全員が消火器を実際に使用する訓練を受ける。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>リスクに対して家族に説明し、その上で抑圧のない暮らしを話し合い対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調については毎日のバイタル測定等で変化がないか注意している。急変時は早期発見しすぐに医師の診察が受けれるようマニュアルを作成し実践している。	○	スタッフ全員が緊急時でもあわてずに行動できるようにミーティングなどで十分に話し合っている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が何の目的で服用され、どのような効果があるのかをよく勉強している。	○	入居者の薬に関するファイルを作成している、又分からないときは病院にて相談している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事の内容に繊維の多い食物をとりいれたり工夫している。便秘が続く方には医師の処方を取り入れ指示のもと服薬している。	○	水分摂取をチェック、確実な排便の有無を把握する。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後は声掛けにて自力で出来る方は自力で、困難な方は介助して口腔ケアを行っている、又自力口腔ケア困難者は食後のマウスケアを行っている。	○	毎日の声かけにより、ほとんどの入居者は自ら口腔ケア(舌ブラシを使用し舌にコケが付かない様)されている、介助が必要な方も拒否なくされている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた食事を提供し摂取量のチェック、水分摂取量のチェックを毎日行っている。	○	毎日の水分チェック、食事摂取量のチェック、又副食の食べ残しの多い方にはどうしたら食べていただけるのか等の課題に対して検討し実行している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザやノロウイルスにはこまめな手洗いの実施を毎日行っている、又予防接種も行っている。	○	面倒だ、口うるさいと文句を言われる方もいますが良い習慣として身につけていただけるようこれからも続けていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日夕食が終わってからまな板、布巾、包丁等の消毒に務めている。食材として生ものはその日に買い入れ、その日に使うようにしている。	○	これからも気を緩めずに毎日実行していく。食材も新鮮なものを買入れ実際に自分たちの目で仕入れするようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の前に花を植えたり、玄関内には入居者さんが家から持ってきてくださった鉢がたくさんある。	○	危険のないように雪かきなどもしっかりと行っている。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに花を飾ったり、皆さんの写真を飾ったりと楽しめるよう工夫している。	○	食卓上の花を見て心が安らぐねえと入居者さんからの言葉あり。窓辺に入居者が植えた朝顔やホウセンカが芽を出している。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	エレベーター前の空間や廊下に椅子を設置して一人で過ごしたり、二人でお話をするスペースを設けている。	○	長いすを増やし全員が座れるよう確保している、一人用～三人用のソファがあり、それぞれ自由に座られている。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族が持ってきてくださり、本人の好みにセッティングされている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	フロア内、台所付近、各居室に温湿計を設置している。気になる匂いはなく、いつもおいしい匂いが漂っている。	○	フロア内に加湿器や加湿タオルを設け湿度に気を配っている、暖房機器も定期的に点検を行い、故障時はすぐに修理できる体制をとっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物全体がバリアフリーになっている。</p> <p>手すりを多く設けており、少しずつでも自立できるように毎日の生活の中に手すりを使ったリハビリを取り入れ必要な利用者さんにはスタッフが付き添って行っている。</p>	○	<p>トイレは大中小とあり車イス、歩行器使用の方でも自立できるよう手すりも随所に取り付け安全を確保した上で自立を促す介助を行っている。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>簡単な作業やレクを通じて一人一人何ができ何ができないのかを把握しスタッフがかわりを持って残りの人生を楽しんで生活できるように日々努めている。</p>	○	<p>台所でのお手伝いや自室の雑巾がけをしていただき張りのある生活になるような毎日をスタッフと一緒に過ごしている。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関の前や裏に畑を作っている。</p>	○	<p>スタッフと一緒に畑に出て苗を植えたり、草むしり、収穫を共に行い楽しんでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

特にありませんが毎日を安全に安心して暮らせるホームだと入居者様・ご家族様が感じて頂ける様スタッフ一同心がけて共に生活しています